

第5号

葦山高校野球部年報

OB会報

龍城球鬼



平成13年度を振り返って

春の東部大会は、初戦で日大三島に、七対六と一点差で敗れたが、激しい練習を乗り越え、夏の大会に臨んだ。

一回戦の相手は、夏の大会では三度目の対戦となる浜名。三回に二点先行し、内外野の堅い守備にも支えられ、中盤まで試合の主導権を握ったが、終盤に入ると浜名の激しい反撃が始まる。七回二死から一点、八回には盗塁、横飛、スクイズを絡めて二点を奪われ逆転を許した。打線も必死の反撃を試みたが、適時打が出ず、浜名投手陣に五安打散発に抑えられ敗退した。

若いバッテリーを軸に、守りの野球、粘りの野球を今年のチームに期待したい。

平成十四年三月

葦山高校野球部OB会事務局

平成12年度OB会事業報告

(平成12年8月1日～平成13年7月31日)

1 活動状況(主な行事)

- 平成12年9月23日 平成12年度OB総会
- 平成13年3月20日 野球部年報・OB会報 「龍城球鬼」第4号発行
- 平成13年3月20日 卒業生OB会入会式
- 平成13年5月19日 新入部員父母会歓迎会 (父母会主催)
- 平成13年7月8日 夏の県大会激励会(父母会主催)

2 会員数及び会費納入状況

(平成13年7月31日現在)

- 名簿搭載 557名 (うち所在不明・永眠者82名)
- 実質会員 475名
- 会費納入
 - 本年度分 161名 499千円
 - 過年度分 40名 147千円

収支決算報告書

収支決算書(平成12年8月1日～平成13年7月31日)

単位:円

収入の部	金額	摘要	支出の部	金額	摘要
前期繰越	1,241,080		部活動援助等	293,370	キャッチャー用具2式
年会費	646,000				バット10本
雑収入	50,000	百周年記念誌10冊	OB会報発行	94,920	東海印刷 800部
預金利息	726	静銀普通預金	卒業生入会式	45,000	図書券 15名分
			慶弔費	20,000	慶1件(シダックス)
			会議費	21,500	総会負担金
			通信費	136,310	別納郵便2回、往復葉書1回
			事務費	87,891	コピー、文具、事務補助
			雑費	10,000	同窓会報広告
			未払金支払	20,000	山本会計事務所
			次期繰越	1,208,815	
合計	1,937,806		合計	1,937,806	

※送金料は各費目を含む



- 発行者 葦山高校野球部OB会
- 事務局 三島市芝本町11-29
- 印刷所 レストランじゅん内
- 写真協力 株式会社東海印刷
- フォトスタジオ かとう光房

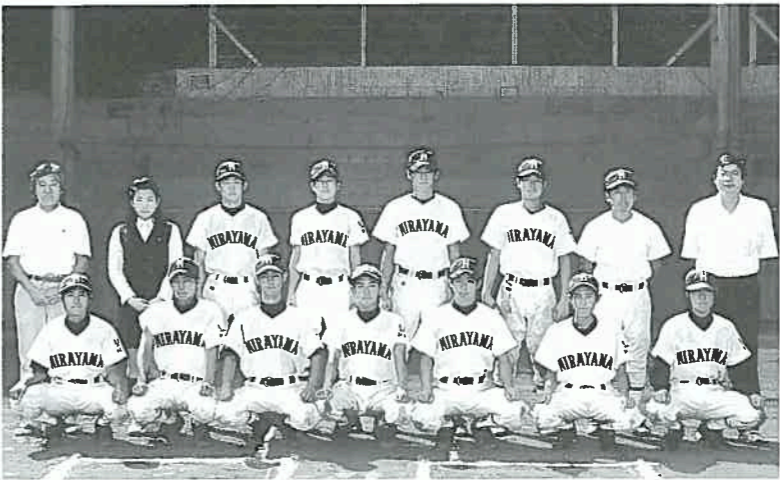
収支予算書(平成13年8月1日～平成14年7月31日)

単位:千円

収入の部	13年度予算	12年度予算	支出の部	13年度予算	12年度予算
前期繰越	1,209	1,241	部活動援助等	300	293
年会費	714	750	OB会報発行	95	95
雑収入	50	50	卒業生入会式	36	45
預金利息	1	1	慶費	—	20
			会議費	50	22
			通信費	140	136
			事務費	95	88
			雑費	50	10
			未払金	—	20
			予備費	1,208	
			(次期繰越)		1,209
合計	1,974	1,938	合計	1,974	1,938

高校54回卒業生

特集



部長	牧野博充	
副部長	関知彦	
監督	古殿和彦	
守備位置	氏名	出身中学
中堅手	◎秋元洋介	函南
遊撃手	小櫻祐司	函南東
三塁手	皆川龍介	長泉
投手	萩原正士	葦山
一塁手	小澤知之	函南
一塁手	角谷利彦	函南
二塁手	稲村慶太	函南
中堅手	前田和希	三島山田
左翼手	露木信之	東海大一
左翼手	林貴一	清水南
右翼手	野田洋介	大平
マネージャー	福室恵美子	三島北上

一年を振り返って

部長 牧野博充

平成十三年度公式戦は、日大三島との戦いで始まりました。若いバッテリーの稲葉・梶山が粘り強く攻め、守りも無難にこなし、皆川の豪快なホームランなどがあり終始高ペースの展開でした。しかし、勝ちを意識したせいのか三点差を八回に追いつかれ延長戦になり、流れは日大にいき、サヨナラホームランで東部大会一回戦敗退という結果になってしまいました。残念でしたが、秋の公式戦伊

豆中央戦の完全試合コールド負けを考えると成長の跡を沢山示してくれた試合でした。

夏の大会は西部の雄浜名との対戦でした。練習試合、合宿を経て力強く成長した我がチームは、七回までは申し分ない戦いで勝利を掌中に収めるばかりでしたが、八回に逆転され三対二というスコアで敗退しました。昨年度から、前半優位に戦っているものの、終盤での逆転を許してしまうという試合展開が葦高野球部の新しい課題になったようです。しかし、選手達は良く戦ってくれました。三年間の野球部生活は、多くの思いを抱



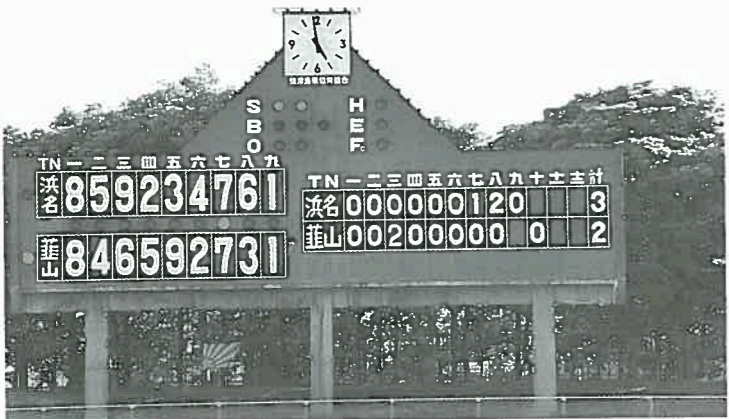
たかが”一”されど”一”

監督 古殿和彦

日頃は、本校野球部の活動に際しましては、多大なご協力とご理解を頂き、誠に有難うございます。

さて、平成十三年度を振り返ってみますと、春季東部大会初戦での日大三島高校戦が始まりでした。中盤のリードを守り切れず、延長戦にもつれ込んだ末のサヨナラ負けでした。まさにあと一步というところでした。そして迎えた夏の大会、相手はノースードながら強豪の浜名高校でした。かなり苦戦するのではという戦前の予想通り、緊迫した試合展開となりました。そんな中数少ないチャンスをものにし、ピンチを好守で凌ぎ逃げ切ろうかという理想的なゲーム運びの中、終盤に逆転を許し一点差で涙をのみました。結果には決して満足はできませんが、とてもいい試合だったと、内容には納得しています。いい試合ができたことは、選手達、特にいつの時もチームの中心としてやってきた三年生諸君のこれまでの積み重ね、過程があったからだと、私自身はつきりと言うことができます。私自身はつきりと言うことができます。私自身はつきりと言うことができます。

秋の新チームスタートは、バツテ



高校野球

主将 秋元洋介

僕たちは、二年と三ヶ月間葦山高校の野球部員として楽しく真剣に誇りを持って野球をしてきました。特に最後の一年間、僕たちが最上級生となつてからの一年間は本当に厳しく、何度となく試練を与えられました。

新チーム結成してすぐの夏の磐田南との合同合宿、秋の大会一回戦での完全試合コールド負け。冬には部内での争いがあった、チームがまとまらなかつたりもしました。春の神戸遠征も、自分たちの足りないところだらけでした。直前の夏合宿での個人ノックは一生忘れられないようなきつい練習でした。しかし、僕たちは全員で全ての試練を乗り越えられたと思います。

夏の大会では残念ながら一勝もあげることが出来ませんでした。僕達が二年と三ヶ月間頑張ってきた成果は出たと思いません。僕達の夏の大会での敗戦は、終わりではなくこれからの人生の始まりであると思います。この敗戦を、これからの人生の糧にして頑張っていきたいと思



戦績表		平成十三年	
試合日	葦高1対戦校	葦高1対戦校	備考
3/18	3-10 静岡西	0-19 静岡西	
3/21	3-5 磐田南	5-14 磐田南	
3/23	2-9 神戸西	5-6 神戸西	
3/24	3-18 市立神港	0-7 市立神港	
3/27	10-6 川口業		
3/28	5-7 富士東	9-2 静岡北	
4/2	6-7 日大三島	春季東部大会回戦	
4/14	2-2 磐田南		
4/15	6-1 駒込	4-0 三島南	
4/22	2-1 吉原業	3-9 吉原業	
4/28	2-9 清水商業	19-10 川根	
5/4	4-2 静岡北	0-5 静岡北	
5/5	0-18 磐田農業	17-4 磐田農業	
5/12	1-3 沼津東	7-2 葦崎	*定期戦
5/20	3-6 三島南		
5/26	8-7 磐田東	9-13 磐田東	
5/27	3-9 吉田	8-5 藤枝北	
6/3	6-4 逗葉	14-5 逗葉	
6/9	1-6 伊豆中央	3-4 花園	*定期戦
6/10	8-6 御殿場南	13-6 引佐	
6/16	5-4 庵原		
6/17	8-4 桐陽	7-4 桐陽	
6/23	17-1 田方農業	18-12 田方農業	
6/24	16-0 君津青葉	11-2 君津青葉	
7/1	7-6 静岡南	5-7 静岡南	
7/8	1-4 長泉	7-9 長泉	
7/20	2-3 浜名		第83回選手権静岡大会回戦



抱いての活動であったと思います。日々の練習、合宿、試合などを通して学んだ経験や勉強との両立に悩んだことなどはこれからの人生に多くのヒントを与えてくれるものと確信します。本当にご苦労様でした。

最後に、本校の野球部に対し、いつも暖かい激励とご声援をいただき本当に有難うございます。部員・野球部関係者一同感謝いたしております。心より、御礼申し上げます。

山 葦

苦しみの中から
立ち上がれ

自信を持って臨んだ新チーム初の公式戦である秋季大会では、なかなか思うような力が発揮できず大きな悔いを残した。これは野球の神様が我々に与えたまず最初の試練だった。この試練によって我々は、高い意欲、向上心を得た。そして冬にかけた。しかし、皆が意欲を持ちながらも向いている方向が一緒ではなかった。チームがまとまら

打安点
山 120 0 100 0 0 0 0
葦 344 4 323 1 0 0 0
秋 12 0 1 0 0 0 0
小 4 4 3 2 3 1 0
野 3 2 3 1 0 0 0
露 1 0 0 0 0 0 0
計 275 2

【葦】
0 6 6 3 1 10 1
振球犠盗失残併
5 6 1 1 3 5 0
【山】

静岡新聞 平成13年7月21日

浜名、終盤に逆転

▽焼津 (第3試合)
浜名 0 0 0 0 0 1 2 0 | 3
葦 0 0 2 0 0 0 0 0 | 2
▽三島打 芹沢、皆川 (葦) 橋本 (浜) 二塁打 橋本 (浜) 露木、芹沢 (葦)
▽試合時間 2時間25分

【評】 浜名が終盤逆転し、接戦を制した。2点を追う浜名は7回、2死二塁から橋本が右中間三塁打してまず1点。8回は犬塚の中前打、盗塁などで得た無死二、三塁で村瀬が犠飛 (記録は敵失) を放ち同点。続く竹下がスクイズを決め勝ち越した。葦山は3回、芹沢の適時三塁打で2点を先取したが、浜名のリリーフ大平に要所を抑えられ惜敗した。



えて勝つ。開き直れ。新世紀の始めに相応しいチームが誕生しました。走攻守チームワークそれ等の幾多の課題・困難を克服して、君達が目標としてきた夏の大会に最後の年となる3年生は、その形相も変わり必死さも一投一打に思いが込められている様です。自分と仲間を信じて最後まであきらめずに、全力で戦ってほしいと思います。OB会、父母会及び多くの葦高野球部ファンに支えられた君達、今まで本当に数多くの感動をありがとう。21世紀の新しい伝統を築き上げる礎になつて下さい。 秋元俊治 (父母会会長)

- 部長 牧野 博充
監督 古殿 和彦
(投) 稲葉 壮宏 2
(捕) 野田 昌義 1
(一) 小澤 和憲 3
(二) 芹沢 龍介 3
(遊) 小櫻 祐司 3
(左) 露木 信之 3
◎(中) 秋元 洋介 3
(右) 石井 裕希 1
(控) 梶山 聡司 2
(外) 八木 崇洋 2
(左) 野田 慶太 3
(右) 稲村 正士 3
(左) 山本 正竹 3
(右) 林 貴一 3
(左) 前田 和希 3
(右) 角谷 利彦 3

現役チーム紹介

部長 牧野 博充

新チームは、秋季東大会において東海大会出場となった加藤学園に終盤の九回に四点を逆転されるという前チームからの課題がまた出てしまいました。その後、勝ち抜いたものの、東部五位決定戦に敗れ県大会出場ならずという結果でした。

三島田地区準々決勝対日大三島戦のことです。春の雪辱を期して望みました。前半は葦高ペースで九回を迎えて二点リードでした。九回表相手の気迫溢れる攻撃に春の日大戦、夏の浜名戦、秋の加藤学園戦が一瞬頭に浮かびました。同点に追いつかれ嫌なムードが漂っていましたが、この試合は今までは違っていました。粘り強く相手の敵失を誘い、九回裏稲葉のサヨナラ安打で五対四で勝利をものにしました。この勝利は公式戦終盤逆転されるというチームのいやな雰囲気を取り去る貴重なものでした。甲子園出場時の粘り強い葦高、逆転の葦高を思い出させるような戦いでした。その後練習試合では、強いというより、負けない葦高という印象を相手校に与えているようです。十一月に行われた三村杯では、三位という好成績を上げることができました。 今、冬期練習の真最中です。多くの課題がこのチームには、まだまだあります。課題を部員一人一人が謙虚に自覚し、監督を中心に選手一同努力を重ねて大きく飛躍したいと思っております。

現役チーム
戦績表

平成13年8月～現在

試合日	葦高一対戦校	葦高一対戦校
8/3	3-0(相良)	9-8(静岡西)
8/6	8-11(沼津東)	
8/7	9-1(山手学院)	7-0(藤沢西)
8/8	10-2(日野台)	
8/11	7-2(藤枝西)	7-8(藤枝西)
8/14	6-5(裾野)	秋季東大会2回戦
8/19	7-10(加藤学園)	秋季東大会3回戦
8/23	4-2(三島南)	
8/26	11-14(市立沼津)	8-3(市立沼津)
9/2	5-2(誠恵)	秋季東大会敗者復活2回戦
9/8	2-7(富士宮西)	秋季東大会敗者復活3回戦
9/15	12-5(吉原商業)	14-4(下田北)
9/16	14-8(伊東城ヶ崎)	15-4(伊東城ヶ崎)
10/8	10-1(静岡北)	6-5(森)
10/13	2-4(帝京第三)	7-6(帝京第三)
10/14	0-12(甲府商業)	7-11(甲府商業)
10/21	4-1(庵原)	7-0(庵原)
10/23	14-2(修善寺工業)	
11/3	5-4(日大三島)	
11/4	1-1(星陵)	8-3(星陵)
11/11	16-1(下田北)	11-2(掛川工業)
11/18	9-5(沼津東)	3-7(富士宮西)
11/23	6-1(焼津中央)	
11/24	6-3(島田)	2-9(島田)
11/25	9-3(静岡西)	3-4(静岡西)

部長	牧野 博充						
副部長	関 知彦						
監督	古殿 和彦						
守備位置	氏名	背	出身中学	守備位置	氏名	背	出身中学
二塁手	芹澤 和憲	3	三島北上	投手	萩原 義也	2	清水
投手	稲葉 壮宏	3	宇佐美	捕手	野田 昌義	2	葦山
一塁手	梶山 聡司	3	大仁	一塁手	峯 弘一郎	2	清水
投手	大川 広人	3	三島南	二塁手	上田 桂裕	2	熱海
投手	室伏 祐	3	長井崎	二塁手	鈴木 宏通	2	葦山
投手	八木 崇裕	3	伊豆長岡	二塁手	増汐 義彦	2	函南
投手	山本 竹哉	3	三島山田	遊撃手	佐藤 貴正	2	土肥
三塁手	上田 康太	3	修善寺	遊撃手	宮澤 勇輝	2	小嵐
三塁手	又平エリック康憲	3	函南東	左翼手	池田 秀高	2	小嵐
遊撃手	小澤 諭	3	三島山田	中堅手	石井 裕希	2	大仁
遊撃手	田中 雅也	3	中郷西	中堅手	勝呂 拓生	2	大仁
左翼手	清水 大輔	3	三島南	中堅手	渡辺 弘毅	2	伊豆長岡
右翼手	嶋津 圭司	3	函南東	右翼手	大沼 紀人	2	三島南
マネージャー	兼子 直美	3	三島北上	右翼手	高橋 翔	2	函南
				マネージャー	鈴木英里奈	2	三島南

平成14年度 野球部試合予定表

月	日	対戦校	時間	対戦校	時間	会場	備考
3	17(日)	下田北		藤枝東		本校 G	
	21(木)	OB戦				本校 G	
	22(金)	磐田南		磐田南		葦山球場	
	24(日)	田方農		相良		葦山球場	
	26(火)	川口工業		川口工業		葦山球場	
	27(水)	修善寺工業				葦山球場	
	28(木)	足利工大付属		富士宮西		富士宮西G	
4	21(日)	富士宮農		富士宮農		富士宮農G	
	28(日)	静岡工業		三島南		本校 G	
5	3(木)	御殿場南		佐久間		本校 G	
	11(土)	沼津東				沼津東G	定期戦
	12(日)	南伊豆		静岡北		本校 G	
	26(日)	沼津商業				本校 G	龍城祭招待試合
6	1(土)	逗葉		逗葉		本校 G	
	8(土)	伊豆中央				葦山球場	定期戦
	15(土)	伊東城ヶ崎		小笠		本校 G	
	16(日)	桐陽		富士宮北		本校 G	
	22(土)	君津青葉		君津青葉		本校 G	
	23(日)	富士宮東		富士宮東		富士宮東G	
7	6(土)	静岡南		静岡南		未定	
	7(日)	長泉		長泉		未定	
	13(土)	第84回全国高校野球選手権静岡大会開会式 草薙球場					



特集

創部百年を越す野球部、全国で四百十校

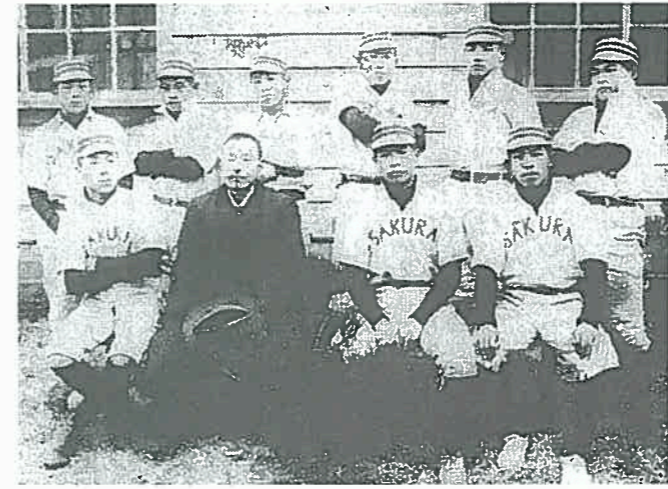
朝日新聞の記事によると、創部百年を越す高校野球部は全国で百五十校を数えるという。静岡県では、明治期に創部された野球部として、静岡中(現静岡高)、浜松中(現浜松北高)、葦山中、掛川中(現掛川西高)、榛原中(現榛原高)、沼津中(現沼津東高)の6校が記録に残されている。

高校野球部、150校が創部100年超す

定期戦復活、記念行事も

甲子園未出場は約40校 現役部員「自分たちが」

21世紀最初の第83回全国高校野球選手権大会(朝日新聞社、日本高校野球連盟主催、8月8日開幕)の出場を目指し、全国各地で熱戦が始まっている。朝日新聞社が各都道府県高校野球連盟を通じて調べたところ、創部100年以上の歴史を持つ高校が約150校にのぼることがわかった。だが、資料が残っておらず正確な創部年次が不明の学校もある。実際はこの数字を上回る学校が、1世紀以上にわたって高校野球を支えてきたようだ。(川崎治子)



佐倉高校に残る1908(明治41)年当時の野球部員の集合写真=佐倉高校提供

米国で誕生した野球は、1872(明治5)年、明治政府に招かれ、数学と英語の教師として来日した米国人ホーレス・ウィルソンが日本に伝えたこととされる。旧制高校を経て、やがて各地の旧制中学に伝わった。1883年創部で、国内最古の野球部の一つと見られる岐阜中(現岐阜)は、図画教師の指導で始まったことが判明している。

俳人正岡子規も高校野球の普及に一役買った。1889年、故郷愛媛に戻った際、伊予尋常中(後の松山中、現松山東)の生徒だった河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)にキャッチボールを教えた。そして、1892年に正式に野球部が出来た。野球が題材の作品を数多く残した子規は今年度、「新世紀特別表彰枠」として、野球殿堂入りする可能性もある。

1890年代後半に野球部が生まれ、最近、創部100周年の記念行事を催した学校も多い。

プロ野球巨人の長嶋茂雄監督の母校として知られる佐倉(千葉)は、1896年の創部。1998年6月、90年以上前に行われていた竜ヶ崎一(茨城)との定期戦を復活させた。明治時代の資料の中に、1907年の竜ヶ崎中との対戦記録が見つかり、県立移管100周年記念行事として定期戦を再現した。

昨年まで3年連続で対戦したが3連敗。今年は日程が合わず試合を断

念したが、10回の甲子園出場を誇る竜ヶ崎一との対戦は得るものも多く高橋好正監督は「今後も交流を続けたい」と話す。

約百五十校のうち、全国大会未出場の学校は修猷館(福岡)など40校余りある。

佐倉も長嶋監督が在籍した1953年に千葉大会ベスト4が最高だ。伊藤晋平主将は、歴史にプレッシャーを感じていないというが、「100年以上たつてまだ一度も(甲子園に)行っていないと聞くと、よし、自分たちが行ってやろう、と思う」と意欲を見せる。

今夏の高校野球には、史上最多の4150校が参加する。それぞれの野球部にまた、新たな歴史が刻まれていく。

創部100年以上の高校野球部数

6024	1231	149
岡崎本分崎島縄	児島	計
福佐長熊大宮鹿沖合		
333	236	214
阪庫良山山島取根口川島媛知		
大兵奈和岡広鳥島山香徳愛高		
165	054	510
川鴻野梨岡知阜重山川井賀都		
神新長山静愛岐三富石福滋京		
333	333	664
道森手田形城島城木馬玉葉京		
北海青岩秋山宮福茨栃群埼千東		

OBの報告

1 第七十二回都市対抗野球大会

東京ドームで七月二十一日から三十一日まで行われた、第七十二回都市対抗野球大会は、静岡県代表の河合楽器が初優勝を飾った。決勝戦は本校野球部OBの堀井哲也監督(高校三十二回卒)率いる三菱自動車岡崎との対戦。三菱は、前年のベスト8に続き、見事に準優勝の栄冠に輝いた。



三菱自動車岡崎野球部 監督 堀井 哲也 (高校32回卒)

去る七月東京ドームで行われました第72回都市対抗野球大会におきまして準優勝となりました。各方面から「おめでとう」とありがたいお言葉を頂きますが、正直、ほっとした気持ちと決勝で負けた悔しさで複雑な心境です。葦高野球部OB会におかれましては、豊岡武士会長や同級生にドームまで応援に来て頂き、又先日帰省した際にも多くの諸先輩方にお声をかけて頂きました。卒業してからずっと野球を続けてくれたことも含め、OB会の皆様に支えられての今回の成果ではなかったかなと感謝申し上げます次第です。

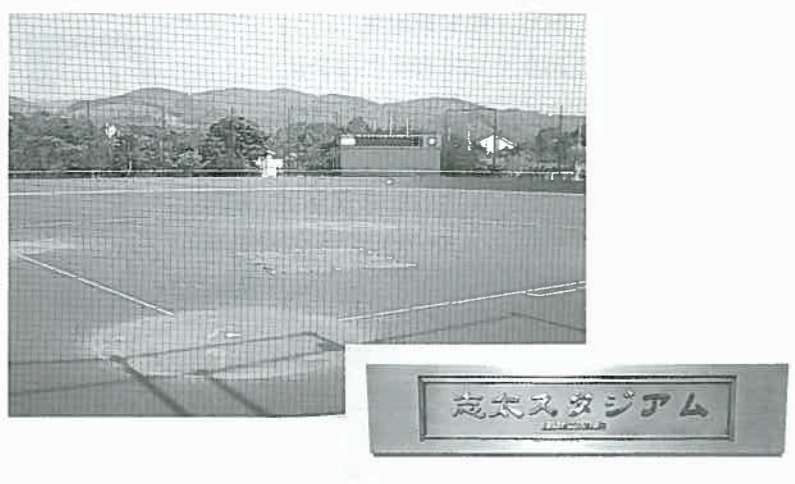
社会人野球の世界で求められるのは勝つ事です。年齢構成、育った野球環境もバラバラなアマチュア野球トップレベルの集まりが唯「日本一」という目的だけで結ばれて猛練習に猛練習を重ねていく世界というのは想像以上に厳しく、毎日が戦場といっても過言ではありません。コーチ時代は選手個々の精神・技術指導が主でしたが監督就任以来チーム全体のベクトルをどう一致させるかにエネルギーを費やしています。社会人は言え本心に精神的にも充実してくるのは三十歳前後になった時であり特に若い選手は社会人としての常識・バランス感覚を育てる事を大切にしています。人間的に成長していけば自然と技術や体力の伸びはついてくるものだと思いますし、なにより勝負どころで使えるいわゆる「球際に強い選手」になるには内面の充実が不可欠です。そういった意味で野球というのは人間がやるきわめて人間臭いスポーツだとつくづく思います。振り返って見れば今こう思えるのも原点は龍城山の麓のグラウンドで流した汗と涙です。あの時代本当に真摯に野球と向き合った自信と誇りが今の自分を支えてくれており、当時出会った野球(人間)の質の高さに驚きさえ覚えます。

チームは監督を写す鏡だとすれば、都市対抗決勝での負けはそのまま私自身の甘さ・弱さです。スタッフ・選手に二度とつらい思いをさせない

2 志太スタジアムが 完成・オープン

本校野球部OBの志太 勤会長(高校五回卒)が所有するシダックス野球部のトレーニング地として、中伊豆町に志太スタジアムが平成十三年四月に完成した。

このスタジアムは、両翼百メートル、センター一二メートルと、都市対抗野球の舞台となる東京ドームと同じ規格で作られている。



訃報



山口 順之氏 (中学52回卒)

葦山高校野球部OB会前副会長の山口順之氏(中学五十二回卒)におかれましては、平成十三年十月二十九日ご逝去されました。山口氏は、戦後の野球部復興期において、投手、主将として活躍。旧制葦山中学卒業後、母校野球部の指導にも精力的に当たられ、二年後輩のチームがセンバツ大会で全国制覇を果たすなど、戦後の母校野球部興隆において大きな指導力を発揮されました。

また、山口氏が創業されたレストランじゅん(三島市芝本町)は、氏の温かい人柄と高校野球に対する情熱に惹かれ、現役選手、OB、支援者などが集うサロンとして、またOB会活動の拠点として、多くの関係者から親しまれてきました。ここに、山口氏の永きにわたるご功績を称えるとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。